

人権作文 中学校

【教育長賞】

後悔をする前に立ち止まる

西部中学校 二年 野中 陽菜

「私もひなちゃんと一緒に病気がもしれん笑」

私が部活中に友達に言われた言葉です。私は汗をかくと、手が痒くなる病気と病院で診断されていました。私は、バスケットボール部に所属していて、手をよく使うので、この病気にはとても苦しんでいました。そのことを知っていたある友達が、自分の手が少し痒くなった時にこの言葉を言いました。友達も最初は心配してくれていたし、その時は冗談のつもりで言ったのかもしれませんが、私は自分の

病気をそんな風に言われるとは思っていなかったのでも、この言葉でとても傷つき、部活に行くのがとてもめんどろつたなっていました。

私だって、なりたくなったらわけじゃないのに。どうして、そんなと言われなきゃいけないの。頑張って治そうとっているのに。やっぱり、病気のことなんて言わない方が良かったのかも。」

とマイナスな気持ちでいっぱいになりました。

私は昔、お姉ちゃんが、小さい頃から努力をしていたことを知らずに、いつもテストでいい点を取っているお姉ちゃんに、

「天才だからなんでもできている。」

と言ったことがありました。このとき私は、周りの人に比べられていたのがとても嫌だったのよ、自分と違って何で

もこなしてしまうお姉ちゃんが羨ましくて、皮肉を言ってしまういました。するとお姉ちゃんは悲しそうな顔をして、

「今まで努力してきたからね」

と答えました。その時は、どうしても怒るんじゃないくて、悲しい顔をするんだと思っていましたが、今、考えてみると、お姉ちゃんは自分が一生懸命積み上げてきた努力を「天才」という一言で片付けられたのが、ショックだったのだと思います。それから、少し経ってから、自分が意識をしていないうちに、お姉ちゃんの努力を踏みにじっていたという事に気づきました。もし、私があのときのお姉ちゃんの立場だったら、どう感じただろう。そう考える、あの一言を言う前に戻りたいです。何年か経った今でも、あのとき言った言葉をいっても後悔し、反省しています。

この二つの出来事のように、人は言葉の被害者にも、加害者にもなってしまうのです。では、自分が被害者にも加害者にもならないためには、どうしたらいいのか。それは、嫌だと思ったことは相手に伝えること、自分が何かを伝えるときには相手の立場になって考えることだと思います。自分が嫌だと思ったことを相手に伝えることで、相手は次からの言葉に気をつけて反省や改善をすることができる、自分も切り替えができて、スッキリして終われます。

また、相手の立場になって考えることで、伝えていい内容なのかの区別ができるようになる、あの時にあんなにと言わなきゃ良かったという後悔も減っていくと思います。一人一人が言葉の加害者にならないということを意識したら、きっと心無い言葉で傷つく人も減っていくはずですよ。

私は、この出来事を通して、

「言葉は、発した本人が知らないうちに、相手を傷つけてしまつて凶器になる。」

「自分は、言葉の被害者にも、加害者にも、なつてゐる。」
「伝える前に、一度立ち止まるのが大切である。」

といつ三つのを学びました。自分は、傷ついているつもりがなくても、相手はうつ思っているのかはわからない

し、たった一言で心に深い傷をつけてしまつたこともあつた。言葉を発した本人も、相手を傷つけてしまつてゐるこ

とに気づかないのは、本当に恐ろしいことだと感じました。
私は今まで、「自分がされた嫌なことを覚えてゐるゆゑに、

自分は被害者の立場になつてゐるばかりだ、もっとみんなが気づいてくれたらいいのに。」と思つていました。人権作

文を通して、この時「自分は、加害者になつてしまつてゐたかも知れない。」とついに、たぐへん頭に思い浮かび

ました。

これから

「した方は覚えていないが、わた方は覚えてゐる。」

といつ言葉を忘れず、自分が相手に言葉を伝える前には、

一度立ち止まつて、相手の立場になつてきえてから、発言
つてゐると思つた。



【特 選】

高齢者問題

西部中学校 一年 坂口 慶多

テレビで高齢者虐待のニュースを見て、心が痛みました。たとえば、殴ったり、つねったり、蹴ったりすることなどがありました。ほかに、怒鳴ったり、ののしかったり、悪口を言ったりすることがありました。

ぼくは、6年前、今住んでいる家に引っ越してきました。その家は、父の実家で、ぼくが小学校入学のタイミングで引っ越して来ました。それまでは、父と母とぼくと弟の四人で住んでいました。引っ越してからは、父方の祖父と祖母と曾祖母と、一緒に住むことになりました。そのころの曾祖母は、まだ元気で野菜を作ったりしていましたが、転

倒し、自分で歩くのが困難になり、車椅子生活になりました。体も弱り、入退院を繰り返すようになり、介護が不可欠になりました。亡くなる三か月前ぐらいには、無理な延命治療などは行わず、自然に亡くなるまでの過程を、家で見守ることになりました。その時、介護の仕事をしていた祖母が、介護休暇を利用して、曾祖母をつきっきりで介護していました。夜も一緒にねたり、ご飯をたべさせたり、トイレの介助などをしていました。一日中、介護し続けるなんて大変だと思いました。そのころの曾祖母は、少し前のことを忘れてしまう認知症の症状が出たり、昼間は寝て、夜起きるという昼夜逆転な生活をくり返していました。寝足と疲労で、ぼく達以外の大人は、とても疲れていたことを覚えています。もしかすると、そのような時に、テレビで見た高齢者虐待につながるのではないかと思いました。

幸い、わが家では、このような事態は起こらず、家族みんな協力しあって、曾祖母は九十三才で、親せきと孫に見守られながら日々を過ごしました。

そのころ、介護を行っていた祖母に、話を聞いてみました。

・家族の介護で、一番大変だった事は？

「元気になってほしくて、ご飯を食べさせたかったけど、食べられなくなった事。食べてほしくて、介護用の食事を買ったり、看護師さんを呼んで、どうしても食べてもらえないか、アドバイスをもらったりした。そのほかにも、食べたくないといわれたら、時間をおいてから、また食べれるか声をかけた。」、

・曾祖母の介護をつついて、うれしかったことは、

「移動入浴のサービスを利用して、ベッドの横で入浴し

た時のこと。それまでは、体を温かいタオルで、ふいたりするだけだったから、久しぶりの入浴で気持ちいいと、喜んだ顔を見れた時がうれしかった。曾祖母が元気だった頃は、大変だったけど、「介護してくれてありがとう。」といわれた時もうれしかった。」

次に、今も介護施設で、介護の仕事をしている祖母に、高齢者虐待について聞きました。

・施設での、高齢者虐待予防は？

「部屋に寝たきりの人であっても、声をかける。声が出ない人であっても、必ず本人の意見を尊重する。車いすに長時間すわり続けているのも虐待になる。ご飯を無理やり食べさせるのは、人権しん書になる。寝たきりで、起きない人のベッドでも、ベッドから降りるいじがどきめるスピーカーを作る。ベッドを全方向開くのは、虐待になる。でも、

転落防止のために、人感センサーなどを使って、転落防止をしている。異食行為について、食べ物じゃない物を口に運んで食べようとするといった対応する時は、相手を傷つけないような言い方をする。目的もなく、歩き回ったり、つじつまの合わないことを言ったりするところがある。そういう時は、気持ちを受けとめてあげる。介護を行う上で、暴言を吐いたり、行動をまたげると、人権しん害になる。言っている事に対して、聞いていないふりをしたり、無視をしたりするのも人権しん害になる。

このように、田嶋さんから高齢者に接している祖母の話を聞いて、わざわざいなくても、高齢者虐待になるんだなと思いました。テレビのニュースで見た、殴ったり、つねったり、蹴ったりする暴力による虐待や、怒鳴ったり、ののしったり、悪口を言ったりする精神的な苦痛を与えることが

虐待と思っていましたが、祖母の話聞いて、わざわざいなくても虐待になるとわかって、気をつけないと守れないところもあると思いました。そんな大変な仕事をしている祖母は、すごいなと思いました。



【特 選】

まだ子供だから

東部中学校 一年 片淵 凜耶

皆さんは、「ヤングケアラー」という言葉を知っています

か。意味まで知っている人もいれば、聞いたことはあるが、

意味までは知らない人もいるかもしれません。ヤングケア

ラーとは、「障害や、病気を持つ親や祖父母、幼いきょうだ

いなどの世話や家事などを日常的に行っている十八さい以

下の子供のじい」です。今の社会で、ヤングケアラーが大

きな問題となっているのです。

ヤングケアラーは、どのくらいいるのでしょうか。厚生

労働省において、文部科学省と連携しておこなわれた「ヤ

ングケアラーの実態に関する調査研究」では、中学生の十

七人に一人が、家族の世話をしているといっています。また、

その世話に費やす時間の平均が、三時間から七時間。ヤン

グケアラーの人に、ヤングケアラーという自覚はあるかと

問いかけた所、あると答えた人の割合は二パーセントだっ

たのです。

ヤングケアラーになってしまうと、困ることは何でしょ

うか。中学生以上であれば、学業に支障が出ます。また、

睡眠時間が十分にとれなかったり、学校の時間に宿題など

をすることで、友達ができず、孤独を感じたりします。最

悪、家族のケアで、学校行事に参加できないなどさまざま

なことがあります。

なぜ、ヤングケアラーが増えているのでしょうか。それ

は、少子高齢化が進み、ケアを必要とする高齢者が増える

のに対し、子ども数が減少していて、さらに、共働きによ

って両親が家にいないというより、高齢者を子供が介護するようになると思います。

そのようなヤングケアラーですが、発見することが難しく、一人でなやんでしまう事が多くあります。すると、学力が低下し、将来の夢が実現できなくなってしまうかもしれません。少子高齢化が進むこの社会では、これからの未来、ヤングケアラーが増加すると思います。

未来が失われてしまうかもしれないヤングケアラー、それを減少させるために、私たち学生だからこそできることは、何でしょうか。それは、周りをよく見てほしいと思います。なぜなら、同じ学生なら相談できるかもしれないからです。だから、私達学生だから、周りをよくみて、あれっと思う子がいたら、話しかける、そのようなことをしてみてもいいかもしれません。

けれど、無理に聞き出すのもいけません。ヤングケアラーは、家庭内のデリケートな問題があり、本人や家族にも自覚がないため、表現化しにくいと言われています。

「家族の病気や障害を知られたくない。」

「言ってもわかってもらえない。」

「知られるのがはずかしい。」

と相談をあきらめたら、

「家族の世話をするのは、あたり前だから。」

とお手伝いの範囲を超えているという、気づかない人もいます。少しずつ、少しずつ、距離をひめるのが、いいのかもしれない。

さて、この作文を読む皆さんにお願いします。現在の日本には、ヤングケアラーの子供達が二万四千五百人ほどいます。決して、少なくはありません。一人でも、ヤングケア

ラーをなくすために、お願いです。学校を休みがちだった
り、早退や遅刻が多い、保健室で過していることが多い、
学力が低下している、勉強に集中できていない、そんな子
が周りにいたら、声をかけてください。今言った、五つの
事は、ヤングケアラーの可能性が高い行動です。話しかけ
るには勇気がいるかもしれませんが、その子の人生が、か
わるかもしれません。そして、もし、ヤングケアラーでは
なかったとしても、友達が増えます。ヤングケアラーの子
は、家庭のことについて、友達を作るひまもなく、孤
独を感じやすいので、話しかけるとすごく嬉しいと思いま
す。その一言で未来が変わるのです。その未来を繋げられ
るのは、あなたの勇気です。

最後に、ヤングケアラーの子は、今、自分がやっている
ことを「仕方ない」と思いこみます。ですが、「仕方なくは

ない」と思います。なにか、一つできなかつたら、「私は、
ダメだ、できない。」と思うそうです。ヤングケアラーにな
ったことのない私が、えらそうに言いますが、これだけは
伝えたい。ダメなんかじゃない、もう、親の事で子供をき
せいにしている時代じゃない、いつだって、大人を頼った
り、相談したりするべきなんです。勉強したり、友達と遊
んだり、自由に夢を持ったりしていい。だって、あなたは
まだ子供だから。ヤングケアラーや、いじめ、差別で苦し
む人々が、一秒でも早くなくなることを、心からいのって
います。

【準特選】

自分自身の体、心、そしてみんなの体、心

匿名

私は、小学三年生が四年生のころ、ある女の子に「骨」って呼ばれたことがあります。極端な話、私は痩せていました。その上、背が高かったんです。背の順でいうと、後ろから三番目くらいです。

私に、嫉妬していたんでしょうか。いいえ、そんなはずはありません。あの子は、私と同様に背が高くて、痩せていました。あの子も、後ろから三列目……いや、二列目だったと思います。気づくくらい目線は、あの子の鼻くらいでいい。その上、痩せていたのだから、お前が言えるんじゃない。うしろ、うしろ思ってたんじゃない。

嫌でした。たとえ「骨」に悪意がなかったとしても、見た目と結びつけて、そんな風に呼ばないでほしい。一回、本当に一回しか、あの子は「骨」って言っていなかったけど、それだけでもとても悲しかったです。今も、そう思います。でも、一番悲しかったのは、あの子が真顔で言っていたことです。笑っていたらまだしも、真顔で言うなんて、まるで私が本当に骨べらいに痩せていると言っているように、聞こえるではないですか。できれば、笑って、言っただけでいい。そっちの方が、まだマシだった。そんなことを、あのときは思っていました。

私は、いつの日の頃からか、この体に不満をもっていました。痩せていたことには、あまり不満を持ちませんでしたが、背の高さがすごく嫌でした。席替えては毎回、後ろか、電子黒板の見えるくらい端っこ側。目線には、友達の頭

か何もないかの景色。そんな損しかないので、いいなあと思われる日々。もう散々でした。今では、視力が低下したため、黒板が見えるように、前側の席にもらえるようになったし、最近は背が高くなっていく友達もいるし、そんなに不満はもっていません。それどころか、この体

に感謝しているんです。そんなことの中で、後悔している

こともあります。たとえば、私の体が嫌いだとしても、毎日朝起きて、ご飯食べて、歯磨きして、当たり前なのですが、きいているのは、影で私の体が支えてくれた証拠ということ、数年後になって気づいてしまいました。あんな出来事で、体の支えに気づくことが出来るなんて、私もまだまだ未熟だなと感じました。

ずっと昔の出来事ですが、もっと辛いことがあっても、一生忘れぬことだと思えます。忘れたいくらいに苦しい

思い出したが、今では、私の体にありがたさを伝えたいと思いつきかけになった、大切な思い出です。私が傷ついたような刃じゃなく、心を包み込むような思いやりという言葉、友達やクラスメイト、どんな人にもしてあげたいなと思いました。

中学二年生となった今でも、私の友達やクラスメイトにも、見た目でいじられている人がいます。いじられている人は、笑ったりへらへらしたりしていますが、本当に笑って流して平気なんじゃないか。もしかしたら、いじられて嬉しいっていつ人もいるかもしれません。私が経験したのは「いじめ」では無いです。けれど、あの出来事は、成立していない「いじめ」と同じくらい簡単に傷を付け、更には、ずっと残るかもしれない傷を、負わせることになる刃だと思えます。まじつや、「いじめ」です。見た目やある人

【準 特 選】

命の重さと差別

西部中学校 二年 森田 飛鷺

の特徴をネタに、話を盛り上げてゲラゲラ笑っているあなた、どんな気持ちで言っていますか。ちゃんと気持ち、考えていますか。一緒に笑っているそのあなたも、どんな気持ちで笑っていますか。あなたも気持ち、考えていますか。みんなが笑っているから、そこは居心地のいい場所なんだと決めつけていませんか。いじられている人、本当に笑っていますか。いじられている人の気持ちを考えて笑えないあなた、どういう心境なんでしょうか。いじっているあいつよりはマシだと、思っていないませんか。そんなことを言っている私、本当に他者を傷つけていませんか。自分と相手の両者、そして第三者、みんなが傷つけあうことのないような自分自身の生活態度について、今一度、頭を悩ませるべしといっぺり考え、自分に問いかねながら行動を起していっぺり、考え方を広げていきたいと思います。――

私が、差別の題材を選んだ理由は、前に「キング牧師」の本を読んで、人権のことについて改めて知りたいと思ったからだ。そこで、人権という言葉について、インターネットで調べてみた。すると、人権とは、「すべての人間が、人間の尊厳に基づいて持っている固有の権利であり、人権には自由権、平等権、社会権の三つの種類がある」ということがわかった。

私は、その中でも、特に平等権について考えた。「私には夢がある。それは、いつの日か、私の四人の幼い子どもたちが、肌の色によってではなく、人格そのものによって評

働かざる者に住むという夢である。「これは、キング牧師が講義を行ったときに言った言葉である。千九百六十年のアメリカでは、バスの前四列の席は白人専用であり、バスが混んでいるときは、黒人は白人に譲らなければいけないという白人優先の決まりがあった。しかし、黒人女性は、白人男性に席を譲ることを拒否したため逮捕された。このことをきっかけにキング牧師は、黒人たちに「バスに乗るのをやめるんだ」という非暴力の講義を行った。その結果、バス会社が儲からなくなり、裁判所は黒人を差別していたことの誤りを認め、すべての人達が平等であると認める公民憲法が成立した。キング牧師には、「ノーベル平和賞」が送られた。このように、昔のアメリカでは、黒人白人の差別がされていたが、キング牧師によって国民憲法が成立した。しかし、まだ完全に差別がなくなったということでは

ない。「SDGs」の十番目の目標では、人や国の不平等をなくそうとしている。だけど、今もアメリカでは、黒人が白人に差別されたり、白人警察官による黒人への暴力だったり、白人が黒人を銃で打ったりしている。白人も黒人もみんな同じ人間であり、命の重さも同じであるのに、肌の色、性別、文化の違いだけで簡単に暴力をしたり、命を奪ってしまうのは、あまりにも悲惨でひどいことだと思う。

日本でも、差別の問題がある。それは、「ジェンダー」の問題だ。日本では、ジェンダーレスの取り組みが世界の中で遅れていて、日本は世界の中でもジェンダーへの取り組みがとても遅れているため、男女の賃金格差や暴力、虐待というこのようなジェンダーの差別によって、女性が働きにくかったり、生活をしにくかったりする社会をつくることになってしまふ。ジェンダーだけでなく、固定概念があ

る一方で、障害を持っている人に対する差別や偏見などの障害者差別などもある。例えば避けられたり、差別的な言葉を言われるなどである。これは、障害を持っている人の人権を大切にすることができないと思う。だから、私は困っている障害を持っている人がいたら「何かお手伝いできる」とはありますか」と聞いてお手伝いをしたいと思う。SDGsの五番目の目標では、ジェンダー平等を実現しようとしているため、日本はこのらの問題を解決するべきだと思う。

そして、日本には、もう一つの問題がある。それは「いじめ」が近年増えていることだ。いじめも差別である。小学生でも、スマホを所持するようになり、ネット上でのいじめが増えている。ほんたうの子供がスマホを持つようになった一方で、ネット上でのいじめなどエトワブルになった一方で、ネット上でのいじめなどエトワブルにな

って、不登校になる子供も増えている。最悪の場合、命を落とすことにもなってしまうかもしれない。何でもすぐに行動をしたり発言したりするのはなく一度立ち止まって、今しようとしていることや言おうとしていることが、正しいことなのかを考えることが大切である。そのように一度立ち止まって行動や発言をする一方で、エトワブルを避けることができると思う。実際に、プライバシーの侵害などで悩んでいる人がたくさんいる。

私は、差別のない世界になってほしいと思う。キング牧師のように講義をする人はできなから、差別のない世界にするために、私は身の回りの人を差別せず、どんな人にも同じように優しく、相手のことを思いやって接しようと思う。そして、よく考えて、差別になるようなことは絶対しないようにしたい。

【準 特 選】

今でも続いているジェンダー差別

西部中学校 二年 有森 日花

私のお母さんは言う「母親部は、なぜ母親がしないといけないのか。」と。私も、それについて疑問に思った。世の中では「男だから〇〇は、してはいけない。」「女だから〇〇は、してはいけない。」「おかしい。」という固定概念がある。いわゆる、この固定概念とは、日本の昔ながらの環境が反映するものだと思う。昔は、男性がお金を稼ぐという環境や風習があり、女性は、その男性を支えるという風潮があった。今でも、この考え方が続いている。

よく「男だから、スカートはおかしい。」という言葉が耳に入る。私は、韓国アイドルが好きだ。ステージでの衣装

で、男性アイドルがスカートを使った衣装を着ていた。とてもおしゃれで、カッコいいと思った。それから、日本のアイドルや一般人の方まで、一つのファッションとして着ている方が多く見られた。世界中の概念を壊してくれた気がした。化粧も、今では、男性も当たり前のようになっている。CMや雑誌で、男性もいろいろな衣装を着る。そこには、「美しくなれる」「今の僕を支える」などといった言葉が書かれてあった。男性が美しくあるのは、おかしいと思う。化粧で、人生が変わったと思う人がいると思うから。

育児休暇は、一二年四月から男性育休取得推進の義務化が始まった。今は、母親だけでなく、仕事場によつて、父親も休暇を取れるようになって来ている。私は、父親も育児休暇を取れるようになったのは、こんな最近だ

と思いませんでした。だから、驚いた。母親だけでは、とても大変だと思う。

自分の身近にあるものも、変わってきている。制服だ。まだだが、女の子もスボンにできるようになる。世の中には、スカートを履きたくない女の子もいる。だから、ちょっとでも、気持ちが楽になってくれたらなと思う。

ジェンダー差別は、いろいろなこと以外にも、「いじめ」や「偏見」にも繋がっている。日本では、約八・九パーセントの人が性に関する悩みがあると言われている。学校で差別やいじめを被っている子もたくさんいる。「男のせい」「気持ち悪い。」といった言葉をかけられ、「恥ずかしい。」という思いで、不登校や最悪、死に至る子どもたちがいる。学校以外でも、職場や家族内でもあると知った。ジェンダー差別は、日本だけではない。色々な国では、性に関する

差別などをなくすための取り組みが行われている。

なぜ、人は比べてしまうのか。人間は、自分のモチベーションを上げようとするためや誰かに認められたいため、勝ち負けを強く考えてしまい人と比べる。自分のモチベーションを上げることや、物事に勝とうとする心はいいことだが、それを「イライラ」や「モヤモヤ」を暴言などにして比べるのは、違うと思う。だけど人々は、それに気付かず「比べる」というのを使って、偏見やいじめをしてストレスを解消してしまっている。きつと頭の中では、バシなように、人と比べている。「ちょっとしたことだ」と思っている人もあると思う。だが、そのちょっとしたことで、人の心を傷つけてしまうかもしれない。最悪、逃げ場なく、死に至ってしまう人もいると改めて知った。私も、知らぬ間人と比べて、偏見をしてしまっていたかもしれない。そん

なうき、自分が、いろんなひょうじょうをうけるんと思うん心

が痛い。

世界には、色々な個性をもった人が多くいる。だから、

私はいいと思う。

「うちはけなう」「おかう」といった固定概念にうられ
われず、一人一人の個性を大切に、性別に対する偏見が
ない、自分らしい生き方ができる素敵な社会ができたらい
いなと思った。



【準 特 選】

職業に対する偏見

東部中学校 二年 小池 愛菜

「食事」きつと誰もが、聞いたことがあるでしょう。普
段、何気なく食べている料理、食材がどのような過程で、
私たちのもとへ届いているか考えたことはありませんか。大
元は、野菜を作る農家、魚を捕る漁師ですね。

ですが近年、普段の食事を支えている農家の人、漁師の
人たちが減少しています。その理由を考えたことは、あり
ますか。私の考察では、人口の減少、産業の発展、そして
偏見があるからだと思います。

「農家の3K」「こんな言葉を、聞いたことはありません
か。「臭い」「汚い」「きつい」これは、他人から見た農家へ

の偏見です。この言葉からは、あまり良いイメージが想像できません。だから、農業の仕事に就く人が、減少してしまっているのではないかと思います。臭いと思われたくない、汚いと思われたくない、そのような思いがあるから農家になんたかという人がいるかもしれません。

また、農業や漁業は、「底辺職」とも呼ばれています。

「誰にでもできる」「それが底辺職と呼ばれ、良くないイメージを押し付けられて、農家の人、漁師の人は、どう感じ取るでしょう。」

私の父親は、農家です。底辺職と呼ばれている仕事をしています。ですが私は、一度も農業を底辺職と思ったことはありません。なぜなら、一番近くで父親の仕事を見てきたからです。たしかに、農家は自然を相手にしているの、日中ずっと日光を浴びて汗をかいています。それでも、私

の父親は、農業の仕事に誇りを持っています。そんな人が、誇りを持ってしている仕事を、他人が底辺職と見下すことも、一種の人権侵害だと私は思います。人が一生懸命やりがいを持っていることに対して汚い、臭い、こんな仕事なんて必要ないなどと罵声をあびせるのは、いかがなものでしょうか。今は、将来の夢を自由に決めていい世の中ですが、農家になると言ったら「え？」と言われてしまいますし、笑われてしまいます。農家は、そんなに汚い職業でしょうか。私たちが生きるために、必要な食材を作る仕事なのに、どうして汚いなどといわれてしまうのでしょうか。どうして人は、他人の短所ばかり見つけてしまうのでしょうか。長所だと思っていたことを短所と言われてしまうのは、かなり心に来ると思います。誰が何を長所と言おうが、その人の自由ですし、他人が口を出す権利はないと思います。

す。誰もが尊重される社会を目指すのならば、どんな仕事でも尊重されるべきではないでしょうか。これからの日本を造っていくために、農業は必要な職業だと思います。農業の悪いところばかりみつけないではなく、良いところを見つけて農業に対する偏見を無くしていけばいいのではないかと私は思います。どの職業にも悪いところは確実にあります。しかし、良いところも確実にあります。リスクを考えて、悪いところを見るのも大切だと思いますが、もう少し良いところを目を向けても良いのではないのでしょうか。

どんな夢を描いてもいいです。アイドルになりたい。医者になりたい。俳優になりたい。どれも素敵な仕事です。未来がある若者が、他人の一言で夢を諦めてしまうのは、決してあってはならないことです。自分の夢は、自分で決

めるものです。他人が簡単に口出しできるものではありません。どんな仕事でも、自分が誇りを持っていたらそれでいいと思います。

どの職業も素敵な職業です。だからこそ、誰もが誇りを持っていける世の中にしていかなければならないと思います。これからの日本が、どの職業でも誇りを持てるようになってほしいと思います。



【準特選】

いつ、誰が、その立場になるかわからない

西部中学校 三年 亀井 瑛斗

「〇〇君、熱が出て休みだつてよー!」

最近ば、こんな話を聞いても驚いたりしなくなった。

新型コロナウイルスが日本で確認されて、世界中に感染が拡大していった2020年、佐賀県でも感染者が発生し、僕が住む鹿島市も感染者が増えていった。

僕はその頃、小学五年生くらいで、学校や同じクラスで感染者が出て、毎日マスクをして消毒をして、ドキドキしながら生活していました。

学校で同級生が「コロナになるよ」

「〇〇君が、「コロナになったてよー!」

「えいど感染したよ!」

「えー昨日しゃべったけど、おい、大丈夫?」

とか、会話が飛びかいました。

家族が「コロナになると、

「〇〇君のお父さん、「コロナけん、早退したつてよーもしかしたら、〇〇君も移つてゐるかもよ!」

とか、会話が飛びかいます。

誰かが咳をしたり、熱が出たりするよ、

「「コロナじゃない?」

「学校きていいよ!」

と、勝手なことを言ったりします。

実際はどうかかわからないのに、勝手に同級生を危険だと決めつけた会話をしていました。

新型コロナウイルスは、周りに移る危険があるから怖いんです。でも、新型コロナウイルスに感染しているのかわか

らないのに勝手に、決めつけた会話をして、同級生や周囲の人と距離をとるようなことが一番怖いということです。こんな会話を、感染した人が聞いたら悲しいと思うからです。

僕は、中学二年生の冬、新型コロナウイルスに感染しました。周りには、コロナに感染している人がいなかったの
で、病院で検査し、

「コロナ陽性ですね。」

と言われた時は、驚きとショックな気持ちになりました。

「どうで感染したんだろう。」

と落ち込みました。

「学校みんなは、僕がコロナだと聞いてどう思ってるだろう。」

「誰かに、移してないかな。」

と色々考えました。同時に、コロナに感染した人の気持ちを知りました。最近も新型コロナウイルスが流行り、同級生がどんどん感染しました。僕も熱が出たら、大丈夫かなと心配で不安で何度も体温を測りました。ちょうど中体連県大会前だったので、もし感染していたら周りの友達も試合に出れなくなると思い、学校を休みました。大切な友達が学校を休み、熱を出したら嫌だし、お互い嫌な気持ちになりました。なくなりましたからです。

新型コロナウイルスは、「いつ、誰が、感染するかわからない病気」です。普通に生活していても、どこかで感染してしまったりします。

「〇〇君、大丈夫かな？」

「僕たちは大丈夫だから、早く良くなって、学校きてほしいね。」

「大会前だから早く良くなって、一緒に試合頑張りたいね」

「熱があるから、」コロナかどうか分からないけど、用心しておかないとね」

そんな会話が当たり前にできる人、周囲の人を思いやれる人に、みんながなればいいなと思います。

今日、明日、もしかしたら、自分が感染者になるかわからないのです。

常に、

「自分がその立場になったら、どう感じるか」

を考え、発言や行動をしないといけないと思います。